

<米国産牛肉等輸入解禁後に予想される各部位別充足率(試算参考値)>

部位名	用途	2003年(1~12月)の 輸入重量 (トン)	2003年(1~12月)の 輸入頭数(換算) (千頭) (A)	部分解禁での 輸入可能トン数 (予想)(トン)	部分解禁での 輸入可能頭数(予想) (千頭) (B)	充足率 (B)/(A) × 100
ヒレ	ステーキ用	6,300	1,100	16,200	2,700	充足
サーロイン	ステーキ用	3,300	210	43,200	2,700	充足
リブローズ	ステーキ、すき焼き、 しゃぶしゃぶ用	6,200	450	36,700	2,700	充足
肩ロース	すき焼き、 しゃぶしゃぶ用	62,500	4,100	37,000	2,700	66%
トモバラ (ショートプレート)	牛丼、焼き肉	136,200	16,600	22,000	2,700	16%
チャックリブ	焼肉(カルビ)	27,600	11,500	6,500	2,700	23%
ショートリブ	焼肉(上カルビ)	8,500	3,500	6,500	2,700	77%
タン	焼肉	40,200	27,000	2,000	1,350	5%
ハンギングテンダー	焼肉(下がり肉)	16,000	16,000	1,350	1,350	8%
アウトサイドスカート	焼肉(はらみ肉)	19,000	21,000	1,200	1,350	6%

(参考)

- ・米国内大手パッカー6社(33工場)で約82%をと畜。
- ・小パッカー(1,000~1,500頭処理/日)は、cowやbullを主に加工しているので、日本向けの牛肉を加工するとは考えにくい。
- ・A40では、内臓の輸入は考えにくい。

[部分解禁による部位別の充足率算出根拠]

- ①米国の肉用牛の年間と畜頭数は2,700万頭。
- ②日本が要求している、生産履歴により月齢が判明する牛は年間と畜頭数の10% →2,700万頭×0.1=270万頭
そのうち、日本に輸入可能となる牛は、その半分と見積ると、270万頭×0.5=135万頭
- ③日本が要求している、A40の牛は年間と畜頭数の10% →2,700万頭×0.1=270万頭
そのうち、日本に輸入可能となる牛はその半分と見積ると、270万頭×0.5=135万頭
- ④ ②と③をたすと、輸入可能頭数は270万頭

・タン、ハンギングテンダー、アウトサイドスカートなどの内臓部分は、A40による管理が困難であり、内臓は生産履歴により月齢がわかる牛のみの輸入になるとして、135万頭とした。

- ・2003年の輸入重量(トン)は、財務省「日本貿易統計」をベースに記載(参考値)。
- ・2003年の輸入頭数は、「日本貿易統計」を基に算出(参考値)。

・農林水産省提出資料等より試算。